

平成 30 年秋期 システムアーキテクト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2018,12,21

10 月 21 日 (日) に行われた平成 30 年秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表された得点分布などの統計データの分析をもとに、システムアーキテクト試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システムアーキテクト試験 (SA)

[平成 30 年秋期のシステムアーキテクト試験 統計情報]

応募者	9,105 人
受験者	5,832 人
合格者	736 人
合格率	12.6%

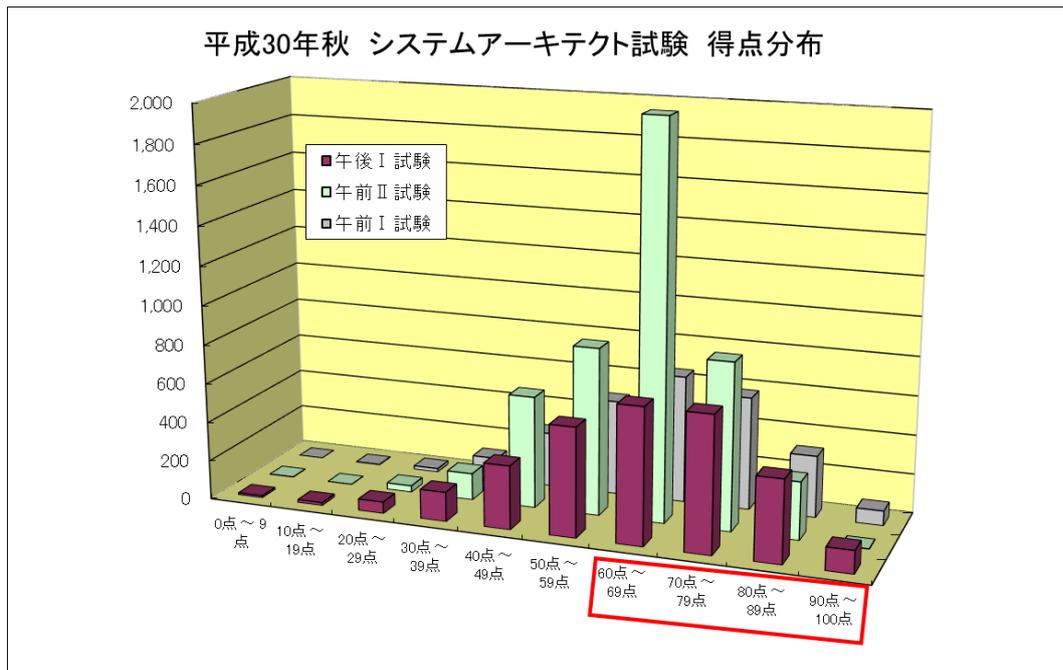
平成 30 年秋期のシステムアーキテクト試験の合格率は 12.6%で、前回の 12.7%とほぼ同じでした。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[平成 30 年秋 システムアーキテクト試験 スコア分布]

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	2	10	D 365	
10 点 ~ 19 点	2	1	15		
20 点 ~ 29 点	18	33	59	C 255	
30 点 ~ 39 点	112	137	150		
40 点 ~ 49 点	279	571	324	B 516	
50 点 ~ 59 点	486	851	555		
60 点 ~ 69 点	649	1,995	691	A 736	
70 点 ~ 79 点	576	848	690		
80 点 ~ 89 点	315	294	418		
90 点 ~ 100 点	75	2	116		
計	2,512	4,734	3,028		
対前試験比率		188.5%	64.0%	61.8%	39.3%
午前 I 免除者 (概数)	3,320	56.9%			

合格者数	736	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	1,615	64.3%	879
午前 II 60 点以上合計	3,139	66.3%	2,403
午後 I 60 点以上合計	1,915	63.2%	1,179
午後 II-A 評価	736	39.3%	0



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 3,320 人 (56.9%) でした。

午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の人は 1,615 人 (受験者の 64.3%) で、前回の 59.6% に比べて 5% 近く上がっています。

午前 II 試験で基準点以上の人は 3,139 人 (受験者の 66.3%) で、前回 76.8% からかなり下がりました。問題自体は従来と比べて定番問題が少なく、新傾向の問題もやや難しかったといえます。

午後 I で基準点 (60 点) 以上取れた人は 63.2% で、前回試験の 59.6% よりも 4% ほど上がっています。問題自体は前回と同じレベルといえます。

午後 II の論述式試験で合格点 (A 評価) を取ることができた人は 39.3% で、こちらも前回試験の 36.6% から 3% ほど上がりました。問題自体は比較的記述しやすいテーマでした。

■平成 30 年秋期 システムアーキテクト試験 出題内容について

(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題))

- 高度試験に共通して出される問題 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれています。今回の問題内容は、文章問題は 15 問 (前回 18 問から減)、用語問題は 6 問 (前回 4 問から増)、計算問題が 5 問 (前回 7 問から減)、考察問題が 4 問 (前回 1 問から増) でした。これらは毎回増減があるので、特に大きな変化はなかったといえます。

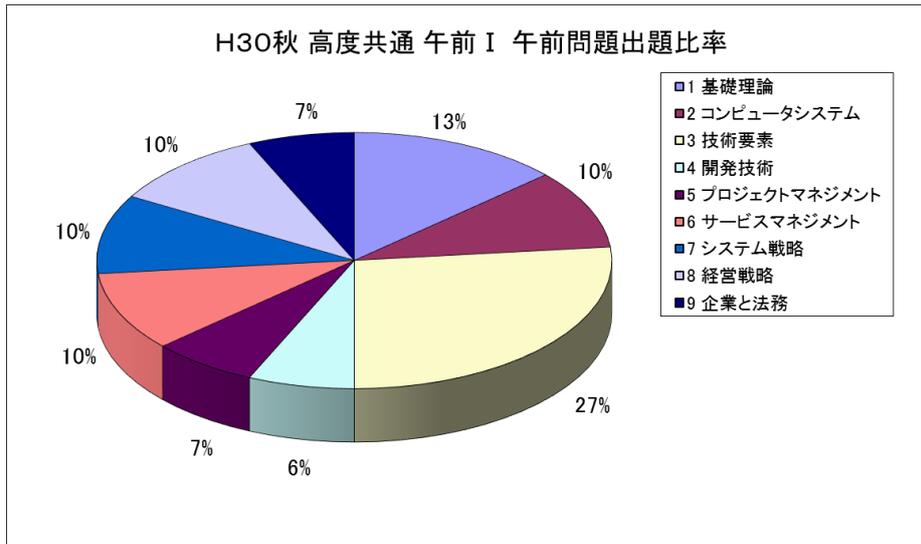
- これまで出題範囲からまんべんなく問題が出されていましたが、今回初めて「システム構成要素」の出題がありませんでした。代わりに基礎理論からの出題がこれまでより増えました。
- 過去問題が約 7 割ありましたが、解答しづらい問題が多く、全体として少し難しい出題内容だったといえます。
- 重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問でした。
- 新傾向問題は次の 2 問で、これまで平均的に 4~5 問あった中では少なかったといえます。

(新傾向問題)

問 25 システム化構想の立案プロセスで行うべきこと

問 27 IoT がもたらす効果の“自律化”の段階

平成 30 年秋期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率



(午前 II 試験 (専門知識問題))

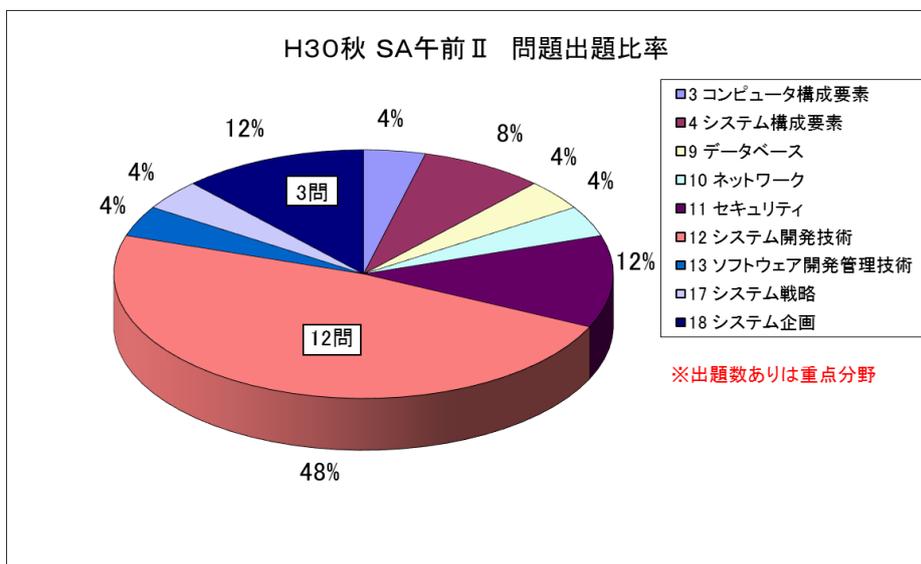
システムアーキテクト午前 II 試験の重点出題分野はシステム開発技術とシステム企画ですが、システム開発技術の出題がほとんどです。定番といえる問題が少なく、要件定義－設計－実装－テストの一連の専門知識の理解が求められます。

過去問題は全体の 6 割弱ですが、システムアーキテクト試験の過去問題は従来よりも少なく、他の高度試験から過去問題が幅広く出題されていました。

新傾向問題は次の 6 問で、やや難しい内容でした。

- 問 3 CMMI 1.3 版のプロセス
- 問 4 アシュアランスケースの導入目的
- 問 13 スクラムを適用したアジャイル開発
- 問 15 WTO 政府調達協定
- 問 16 NRE (Non-Recurring Expense) の例
- 問 23 格納型クロスサイトスクリプティング攻撃

平成 30 年秋期のシステムアーキテクト試験 午前 II 問題出題比率



〔午後Ⅰ試験（記述式）〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは次のとおりです。問3のETCサービス管理システムの問題は過去に類似の内容がない新傾向と言える問題でした。全体に前回と同様の難易度といえます。

問1 システムの改善（システムインテグレータ） 普通

人材開発の高度化，現行システムの機能改善と連携，目標・受講・資格管理システム，研修概要，講座運用，システム改善要望，システム機能改善と連携強化の要件，要望の追加

問2 情報開示システムの構築（公的業務を行う団体） 普通

請求から開示までの流れ，新システム構築の背景・目的・整備方針，要望，新システム方式検討，クラウドサービス，新機能の概要，電子フォーム，利用者登録手順・連絡先確認方式，自動音声読上げ

問3 ETCサービス管理システムの構築（法人向け自動車リース会社） 普通

業務とシステムの改善，業務概要，システムの改善要望，改善後のシステム内容，カード発行機能，レコードチェック内容，取得契約情報，請求機能，抽出条件，ETC利用レポート，契約時の提供情報

問4 IoT，AI活用の海運用コンテナターミナルシステムの開発（積卸し機械メーカー） 普通

荷役作業の効率化，ターミナル設備，システムの問題と解決方針，新システムの概要，自律走行運搬車，無人化，運用考慮点，スケジュール変更要因，時刻精度，サーバ性能，故障予測，事故防止策

〔午後Ⅱ試験（論述式）〕

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは，次のとおりです。問1と問2は記述しやすいテーマといえます。

問1 業務からのニーズに応えるためのデータを活用した情報の提供について

ニーズのあった業務内容，関連システム，ニーズ分析と提供情報内容，提供の課題，課題対応の工夫

問2 業務ソフトウェアパッケージの導入について

対象業務・システムの概要，実現機能とのギャップと解決策，方針，解決策評価，改善内容・理由

問3 組込みシステムのAI利用，IoT化などに伴うデータ量増加への対応について

システム概要，データ増加要因の機能・性能，発生問題，目的達成の解決策と選択理由，達成度，課題

